

令和3年10月19日(火) 三重県松阪市立鎌田中学校

中学校兼公民館におけるコミュニティ・スクールのあり方
— 三重県松阪市立鎌田中学校の実践から —

松阪市教育委員会 松阪市立鎌田中学校

1 松阪市立鎌田中学校校舎改築基本認識

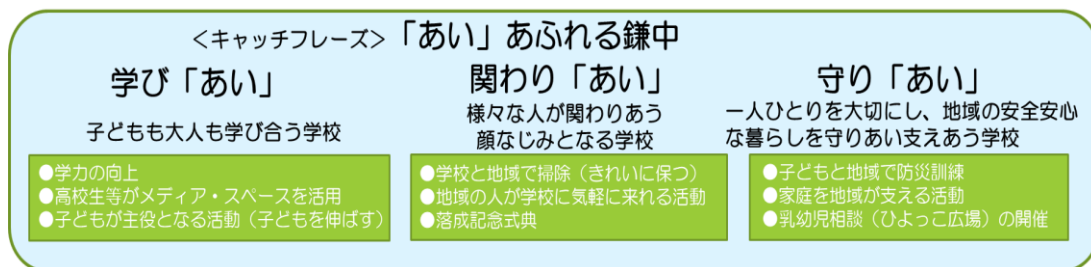
- (1) 基本構想及び基本計画にかかる主役は、地域住民および学校関係者である。行政および大学はその支援者である。
- (2) 校舎の建て替えがゴールではなく、新校舎完成後も地域および学校関係者が自立かつ主体的に運営していくための気運づくりと体制づくりを行う。
- (3) 当面の建て替え事業は鎌田中学校の校舎であるが、隣接する第四小学校の将来の建て替えも見据えた検討を行う。
- (4) 地域との協働による学校運営を体現する校舎づくりだけでなく、学びと交流を通じたまちづくりの拠点としての校舎づくりを目指す。



多目的ホールから中庭

2 松阪市立鎌田中学校兼公民館におけるコミュニティ・スクール

- (1) キャッチフレーズ 『あい』あふれる鎌中
キーワードは『地元“愛”』地元を愛し、10年、20年後には鎌中で育った生徒が地域の担い手になる、そのために学校にお任せでなく、地域も手をかける。「あい」には地元の“愛”の他にも、人と人が“会い”、みんなで協力し“合い”など“あい”には様々な思いが込められている。



(2) 活動の柱

・学び「あい」

地域の力を導入し、子どもも大人も学びあう学校を目指します。

・関わり「あい」

地域、保護者、教職員、児童・生徒など様々な人が関わりあう、顔なじみとなる学校づくりを目指します。

・守り「あい」

児童・生徒や地域の人々一人ひとりを大切に、地域の安心安全な暮らしを守りあい支えあう学校づくりを目指します。

(3) 体制の柱

・拠点づくり

鎌田中学校区における学校教育の拠点としてだけでなく、地域・まちづくりの拠点として公共的な活用もできる場づくりを目指します。

・実行の場づくり

教職員、児童・生徒、地域住民が参画し、活動プログラムを作り、資金集めや担い手となる人々を集め育成するなど、コミュニティ・スクールを実行していく体制づくりを目指します。

(4) 「あい」あふれる鎌中を実現するための9つのコンセプト

- ・地域と深く結ばれていく鎌中ストリート
- ・コミュニティ・スクールの活動拠点
- ・学び「あい」と関わり「あい」が共存する構成
- ・段階的な地域開放レベルの設定
- ・中庭・吹抜けを中心に回遊性のある内部空間
- ・多目的に利用できる大きささまざまな空間
- ・特色ある4つのメディアスペース
- ・松阪、鎌田らしさを感じる校舎
- ・自然エネルギーを活かしたエコ・スクール



メディアスペース

(5) ゾーンの設定

ア 学校専用「スクール・ゾーン」

学校教育における基本的なゾーンで、日常の管理運営において地域と共用することは難しいスペースであるため、学校専用ゾーンとします。

イ 地域専用「コミュニティ・ゾーン」

新しい学校のあり方として、コミュニティ・スクールを支える地域の活動拠点として必要なゾーンであるため、校舎内でありながら地域が主体的に管理する地域専用ゾーンとします。

ウ 学校と地域で共用する「コラボレーション・ゾーン」

将来、学校専用スペースを地域に積極的に開放していくため、さらには生徒、教職員、地域住民のニーズを踏まえて新たなスペースも配置し学校と地域の連携を深めるため、共用ゾーンとします。

エ コミュニティ・スクールの鎌中校舎の象徴

「鎌中ストリート」

上記の3つのゾーンを有機的につなぎ、学校と地域が一体となって運営するコミュニティ・スクールの象徴として「鎌中ストリート」を配置します。



鎌中ストリート

3 コミュニティ・スクールの成果と課題

学校と地域との交流の機会が増え、地域の教育力を学校の教育活動に生かすことができた。学校と地域とのコーディネート由市職員が行ったり、夜間、土日祝日の管理をシルバー人材センターが行ったりすることで成果があがっている。部活動指導等へも地域の方々の力を活用できるよう現在模索中である。